

# 24時間・365日安心して暮らすための 取り組みについて

第2回北信地域障がい福祉自立支援協議会  
平成29年11月16日(木)

北信圏域障害者総合相談支援センター  
地域あんしんコーディネーター 市村綾子

# 居住支援の在り方

- 入所施設の在り方から始まった。
- 地域で暮らすリスクの高い方を、緊急時や夜間においてサポートし、在宅生活を支える仕組みの必要性。
- 24時間・365日の安心を考える



平成29年4月より地域あんしんコーディネーター2名の人件費(総合相談支援センター所属)と緊急時をしのぐ空床2床(はるかぜ)を6市町村に共同で予算をつけて頂いた。

# 北信圏域が目指す地域作り

(H27年から地域生活拠点検討会議を検討)

- ご本人の意思に基づき、暮らせる地域づくり。
- 24時間・365日の緊急対応と相談支援の強化
- あらゆる資源の協力体制を目指して行く。

# ご本人を真ん中に、暮らし続ける ために必要な支援

## ①緊急時対応(24時間・365日)

ご本人を真ん中に応援チームを作り、緊急時に対応していく相談支援の強化を行う。

②緊急時に備えていつでも空いている部屋を2床確保している。(はるかぜ)

③ハイリスク者に対する予防対応(登録台帳の整備)

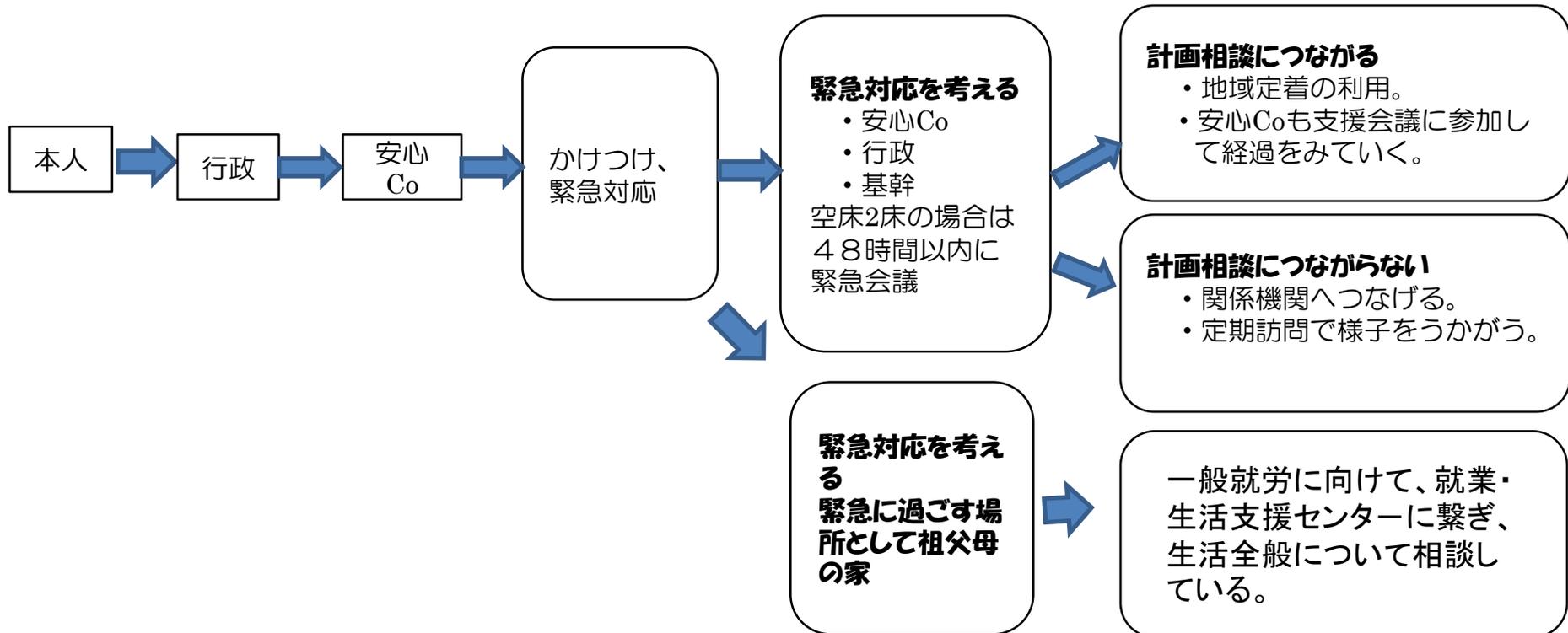
④緊急時対応を地域のあらゆる社会資源を活用し、連携していく体制作り。

⑤多様な障害特性に対応できる人材育成のための研修企画。

# 24時間・365日の緊急時対応

【ケース：虐待されていると自ら市町村担当者に相談に行ったAさん】

親からの暴力から、市町村に相談に行ったAさん。お盆で休日の時期だったが、緊急の面談と支援会議を行い、祖父母の家に緊急避難することができ、現在は親との関係も改善し、生活全般について関係者で引き続き支援している。



# ハイリスク者に対する予防対応 (地域生活が特に心配と想定できる方)

■ 6市町村とケース進行会議を行っている。  
連絡体制や緊急時の支援が必要な方を共有する。



■ 想定対象者のガイドラインに繋げていく  
緊急時の支援に備え、台帳を整備し、スムーズな連携に繋げる。

# 地域定着支援と空床2床の仕組みで在宅生活 が続けられるBさん

長期入院から在宅生活に移行されたBさん。度々お父さんを殴り入院が長期化していた。退院後日中活動事業所の確保を行い、家族への暴力行為があった際は、地域定着による駆け付け支援と、クールダウンとして空床2床の利用を行っている。



父親を殴る

地域定着支援  
かけつけ支援  
空床2床でクールダ  
ウン

緊急か  
ら予防  
へ

計画相談の支援会  
議  
緊急を防ぐ視点で、  
安心Coも会議に  
参加

# お母さんが入院となり一人での生活を支える

高齢な母親が心臓の手術のため入院となった。その間、居宅介護・短期入所・地域定着を組みあわす支援を実施した。一人でも仏壇を守り住み慣れた家で生活できる自信につながった。



©occa.jp - 9363019

お母さんが  
入院



居宅介護（本人と一緒に食事を作る）  
短期入所（息抜きの場として）  
地域定着（夜間の安心）



将来ご本人が一人になった際も、自信を持って家での生活ができることが、今回わかった。



ご本人の意思に基づく暮らしを実現するために、あらゆる資源を活用し、居住支援の在り方を考えて行くには・・・

緊急を絡めた地域の課題を考えた際、エンジンになってもらう部会と連携を考えた。

- 本人中心部会と連携（施設から地域に移行）
- 精神部会と連携（アパートで生活する際の保証人問題と不動産との連携）
- サービス向上部会と連携（居住支援と居宅支援）
- そだちネットワークと連携（医療的ケアが必要な方）